

水田のプラスチック被膜殻対策

早生品種では硫黄被覆やウレアホルム肥料で代替可能です

【背景・目的】

水稲作で普及している被覆肥料には、プラスチック被膜殻が使用されており、代かき時に河川等へ流出するなど環境への影響が懸念されています。

そこで、硫黄被覆肥料やウレアホルム肥料などプラスチックを含まない緩効性肥料（図1）を用いて、省力的な全量基肥施肥技術を検討しました。

【成果の内容】

- 1 早生品種では、プラスチックを含まない緩効性肥料でも、慣行のプラスチックを使用した被覆肥料と生育や収量が同等であることから、代替可能でした。
- 2 中晩生品種では、プラスチックを含まない緩効性肥料では生育後半に肥切れするため、慣行の肥料と同等の収量を得るためには、追肥が必要になるなどの課題がありました。

現在も、肥料メーカーが新たに開発した、長期間肥効が持続するプラスチックを含まない肥料を用いた試験を継続しています。



硫黄被覆肥料

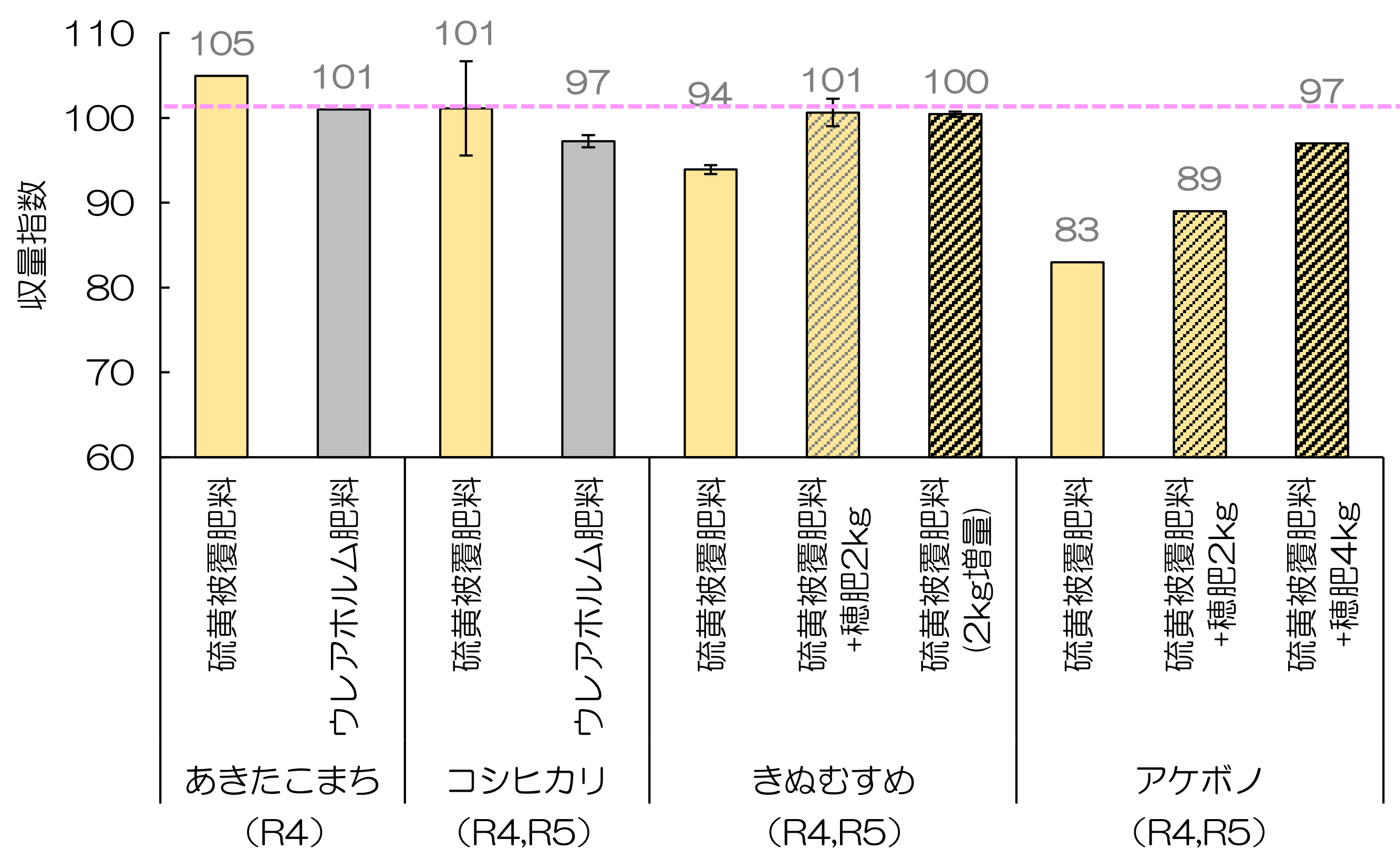


ウレアホルム肥料

図1 プラスチックを含まない緩効性肥料



図2 肥料試験の様子



プラスチック被覆肥料による収量を100とした場合の収量指数

図3 プラスチックを含まない肥料の収量性

お問い合わせ先

岡山県農林水産総合センター
赤磐市神田沖1174-1

農業研究所

TEL. 086-955-0271